

音水渓谷でナガサキアゲハを採集 内藤 隆夫

筆者は、音水渓谷でナガサキアゲハ *Papilio memnon* を採集したが、県中部での本種の記録は少ないと思われるので報告する。

1♂, 宍粟郡波賀町音水渓谷, 20.VI.2000

アオバセセリとともにウツギを訪花していたもので、かなり破損した個体であった。

<参考文献>

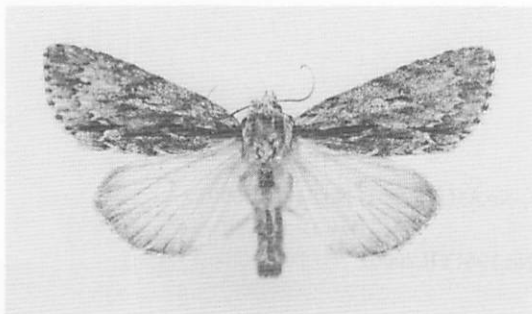
広畑政巳(1996) IRATSUME(20) : 57-65.

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)

鉢北高原でゴマシオケンモンを採集 (兵庫県産蛾類分布資料・19) 高島 昭

ゴマシオケンモン *Triaena isocuspis* (Sugi) は冷温帯性の種で本州と四国の一部に分布し、中部地方などでは山地に普通に見られるが西南日本では少ない種である。本種はこれまで兵庫県から未記録であり、高島(1998)では今後記録される可能性がある種として示したが、鉢北高原で採集することができたので報告する。これで兵庫県に産するケンモンヤガ亜科は31種となる。

村岡町鉢北高原 19.VIII.2000 1♂ 高島 昭採集



現地は鉢伏山北東斜面の標高約800mの地点で、乾性草原とミズナラ、ブナ、ハルニレなどの温帯林が混在し、冬期はスキー場として利用されている。当日はほかにヒメクチバスズメ、キタバコガ、ムラサキオオアカキリバ、エゾシロシタバなども飛来した。なお、同行した兵庫県立人と自然の博物館の八

木氏はムラサキシタバ、オオシロシタバを採集されており、当ポイントは蛾の好採集地として注目される。

<参考文献>

高島 昭(1998) 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科 きべりはむし26(2) : p.44-58

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

クビキリギスとクサキリ 近藤 伸一

南光町の千種川グリーンライン昆虫館に、今年の4月から館長をされている岩村 巖氏を訪ねた際、クビキリギスが話題になった。クビキリギスは直翅目の中ではツチイナゴとともに成虫越冬する数少ない種類で、昆虫館にとっては冬期も展示出来る重要な昆虫だそうである。最近はなかなか見つからず、西播磨で何度か採集を試みたが採集出来ないとのことであった。幸い神戸市西区には生息地が残っているので採集を約束した。

10月、上郡町赤松でシルビアシジミを撮影中にたまたまクビキリギスを見つけた。飛び方がおかしいと思いつつも4匹を採集し、その足で昆虫館に届けた。ちょうど前館長の内海功一氏がおられ、4匹ともクビキリギスでなくクサキリであるとの指摘を受けた。

その後、西区内でやっと本物のクビキリギスを採取し、無事昆虫館に届けることが出来たが、なじみの深いこの虫も最近ほとんど見ることがなくなった。「気がつけばいなくなっていた昆虫」に仲間入りしたようである。最近のクビキリギスの採集記録と、ついでにクサキリの記録を報告しておきたい。

クビキリギスの採集記録

川西市黒川 1♀ 3.XI.1996

神戸市西区榎谷町寺谷 1♂ 14.X.2000

クサキリの採集記録

川西市黒川 1♀・3.XI.1996

神戸市西区榎谷町寺谷 1♂ 12.VIII.2000

上郡町赤松 4exs. 8.X.2000

(KONDO SHINICHI)

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)